



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

—平成29年度総集編—

特別企画

テーマ別運営事例集



公益財団法人

日本体育協会

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについては以下から
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業



特別企画

特集とは異なる視点から時流に沿ったテーマを設定し、皆様に役立つ情報を掲載しました。

第132号（平成29年5月22日発行）

「イベントを通じて地域に存在をアピールするクラブ」

NPO法人Tap----- 2

京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ----- 8

第133号（平成29年7月20日発行）

「介護予防等の健康づくりに取り組むクラブ」

NPO法人ひめさゆりくらぶ ----- 14

あまスポーツクラブ ----- 20

第134号（平成29年9月20日発行）

「若い世代が活躍するクラブ」

マイマイスポーツクラブ ----- 25

わくわくクラブおおやまざき ----- 30

第135号（平成29年11月20日発行）

「自然災害に対する取り組み」

徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会----- 35

第136号（平成30年1月22日発行）

「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」

知的障がい者の受入に向けた基礎的情報 ----- 43



特別企画

イベントを通じて地域に存在をアピールするクラブ



NPO法人Tap ＜新潟県中魚沼郡津南町＞



1

クラブ概要

有志が中心となり地域の問題点を見直してみようと組織を立ち上げたのが、Tapの始まりです。「つながりの希薄化」と「利己主義の台頭」を問題点として、理念を「つながりで人づくりとまちづくりをします。」と決めました。toto助成金を受けている際には事務局を行政の臨時職員が担当し、立ち上げと同時に法人格を取得して町の社会体育事業の受託を開始しました。今では町健康増進施設の指定管理も受託しています。

2

町外親子対象に「雪遊びツアー」、町内旅館との連携で実現

平成26年度から町内の旅館と行政と共に、町外の親子を対象とした豪雪地ならではのかまくらづくり等を行う雪遊びツアーを実施しました。それまでは、地元の子どもたちを対象にそり乗りなどの遊びを実施していましたが、町外の親子を対象にする事業は展開したことがありませんでした。イベントを準備する中で、クラブでできること、できないことが見えてきたため、クラブから旅館へ協力の依頼をしたことをきっかけに、旅館と連携することとなりました。連携により、クラブはイベントの運営をし、旅館は集客、送迎、食事の提供等の役割分担ができるようになりました。雪遊びツアーの実施後「県外の子どもに雪遊びを体験してもらったけど、地元の子どもこそ、かまくらづくりの経験が少ないのでは…」と思うに至りました。その後、更なる発展を目指し新潟県広域スポーツセンターの「総合型地域スポーツクラブ協働展開事業」に応募し、平成27年度から「雪遊びキッズ」、「スノーシューハイキング」、「雪原運動会」の3事業を実施しました。



【新潟県総合型地域スポーツクラブ協働展開事業】

1. 事業の趣旨

新潟県総合型地域スポーツクラブ(新潟県総合型クラブ)の地域における認知度・理解の向上と役割の確立を図り、クラブの自立を促すため、それぞれの地域の実情を踏まえ、各分野と協働してスポーツを活用した質の高い公益事業を提供することができる新潟県総合型クラブを育成する。

2. 事業の実施主体

新潟県総合型クラブで、新潟県広域スポーツセンターが指定する団体。

3. 事業の内容

新潟県総合型クラブが地域の各分野と連携し、スポーツを活用した質の高い公益事業を地域住民に提供。

4. 事業による効果

- (1)クラブの事業の充実・拡大による財源確保(運営安定化)
- (2)地域におけるクラブに対する認知度・理解の向上、役割の確立



クラブの自立

3

地域資源を「雪」に特化、3事業を展開

【雪遊びキッズ】

町内の子どもたちを対象にして、スコップやスノーダンプといった雪国では欠かせない道具の使い方や雪遊びを体験してもらうだけでなく、雪遊びライセンスを設定し、レベル別にバッジを配布して意欲の向上を図りました。2年目の平成28年度には地元雪まつりでスコップやスノーダンプを使い、大きな雪像を作ることができました。安全に雪で遊べる機会を設けることにより、今の子どもたちも自ら考え、楽しい遊びを発想できることに気づきました。

※雪遊びライセンス

学年ごとに、「雪玉をしっかり作れる」、「〇〇の大きさの雪だるまを作れる」といったように作業を段階に分け、規定の作業ができるとバッジ(学年ごとに色分け)を配布。



【スノーシューハイキング】

雪の上を楽に歩くための道具であるスノーシュー（西洋かんじき）を履いて、雪原をハイキングするイベントを計画しました。町内旅館からは事前に宿泊者への周知や声かけをして集客をしてもらいましたが、当日はあいにくの天候も重なり参加者が0名という、今までにない結果となりました。

2年目の平成28年度には近隣の観光協会やカフェなどの協力者を増やし、津南町に色濃く残る縄文文化と雪国文化に触れる雪上での「縄文ハイキング」に企画を変更し実施しました。近隣の湯沢町に来ている外国人観光客を主な対象として、約1か月間毎日実施できるように観光協会とも協働して事業のPRを行いました。結果的には視察等の受け入れはあったものの参加者実数としては0名でした。

この企画によって観光関係者との多くの新しい「つながり」を持つことができ、Tapを知ってもらいきっかけになりました。また、PRの方法や事業を実施する上での役割分担など観光事業を継続実施する難しさを感じることができました。



【雪原運動会】

町内の雪まつりに来た宿泊者などを対象に雪原運動会を開催しました。愛知県から来ていた家族などが参加して、スノーフラッグや雪積み競争など雪に触れることだけでも楽しそうに活動していました。賞品には地元の特産品を用意して喜ばれました。ただ、参加者は雪遊びができるような服装ではなく、雪の降らない地域から参加する場合の対応策を考えるきっかけとなりました。

2年目の平成28年度には、県内の総合型クラブを対象に計画をしました。クラブ同士の「つながり」が観光にもなると期待していましたが、年度末での開催に加え近隣クラブでは事前に同様の雪イベントを開催していたことで参加クラブはありませんでした。総合型クラブ同士の交流イベントは参加クラブ全体で計画、実施しなければ思うような効果が上げられないことがわかりました。



4

Tapの存在認知 旅館との協力関係構築

子どもたちが雪遊びを体験できたことで郷土教育にもなり、故郷の良さを感じてもらえました。また、この事業を始めるまではTapの存在を知らなかった旅館にも、Tapの活動を知ってもらうことで事業の相談ができ、協力関係をつくることができました。継続して集客できれば、収入増への期待を持てることもわかりました。

そして、今まで観光に携わっていなかったTapが事業や会議などを行うことで観光関係者の意欲向上のきっかけをつくることができました。また、地域活性化の一つとして観光、スポーツツーリズムがあることを関係者で共有できました。

◆不可欠な役割分担と信頼関係

スポーツツーリズムを企画するにあたっては、郷土の資源をもう一度再認識、再確認することから始めなければなりません。そして、企画から周知、実施の過程では様々な関係者との役割分担が必要不可欠です。そのためにはコミュニケーションをよくとり、信頼関係を築かなければなりません。スポーツツーリズムはすぐに結果が出ないため、じっくり継続していくことが重要であり、総合型クラブは受け入れスタッフとして、今後活躍できる機会がありそうです。

スポーツツーリズムに取り組んだことで一番感じたことは、人との「つながり」の大切さでした。これからは理念をもとに長期的なビジョンを創り、様々な人や団体との「つながり」を大切にして人づくりやまちづくり、健康づくりに取り組んで地域に必要なクラブを目指します。

(NPO法人 Tap マネジャー兼事務局長 江村大輔)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成25年3月26日

所在地 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡丁1633番地1

運営 会員数169名（平成29年5月現在）予算規模9,940万円（平成29年度）

有給職員 8名

特徴 「つながり」を理念に様々な人や団体と活動を展開している。
行政との協働関係を築き、ともにまちづくりに取り組んでいる。
子どもたちの遊び活動とアクティブシニアの健康づくり活動を展開している。
また地域の資源を生かしたイベントも行っている。
ウエイトリフティングの普及や観光との協働にも取り組んでいる。
「Tap」は「Tsunan all people」の頭文字と、「おもしろそうだから私も協力するよ」と肩をたたいて(タップ)一緒に楽しもうという意味が込められている。

連絡先 〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡丁1633番地1

特別企画

イベントを通じて地域に存在をアピールするクラブ

京都府総合型地域スポーツクラブ 連絡協議会

地域におけるクラブの存在意義や価値を高め、クラブの自立・自律に向けた活動を促進するために、地域の住民間の交流を深め、地域活性化に寄与するイベントを実施することは、地域にクラブが根差すために重要な取り組みの一つと考えられます。

そこで、今回はイベントを通して、クラブの存在を地域にアピールする京都と新潟の取り組み事例を紹介します。



1

連絡協議会概要

京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（以下、連絡協議会）は、京都府内における総合型地域スポーツクラブ（以下、クラブ）の横の繋がりを強化することにより各クラブの活動の活性化を図り、京都府のスポーツ振興に資することを目的として活動しています。設立当初は京都府を3つのブロックに分け「北部ブロック」・「中部ブロック」・「南部ブロック」とし、14の加盟クラブで構成されていました。現在は、加盟46クラブとなり、ブロックも南部ブロックをさらに2つに分け、「北部ブロック」・「中部ブロック」・「乙訓・京都市ブロック」・「山城ブロック」の4ブロックで活動しています。

平成27年度から運営委員会を設置して事業の企画・運営を主体的に行い、連絡協議会の今後の発展に向けて検討しているところです。運営委員会では月1回の定例会議をもち、専門部会や各ブロック会議を随時開催し、加盟クラブが一丸となって組織化に取り組んでいます。各ブロックでは、ブロック内の全クラブが協働して情報交流や親睦を図るための事業であるブロック交流会を企画・運営しており、ブロック相互に刺激し合うなど、とても良い効果が表れてきています。

2 企業との協力関係で「グルメリレーマラソン」を運営

京都ご当地グルメリレーマラソンは平成25年度から始まり、今年度で5回目を迎えます。このイベントはクラブの財源不足という課題解決のためのアイデアから生まれたもので、イベントで得た収益を各クラブや連絡協議会本体へ還元するという仕組みを作っています。公益財団法人京都府体育協会・企業・連絡協議会の三者で実行委員会を組織して企画・運営を進めており、企業と協力関係を結ぶことでクラブや行政だけでは難しい大きな事業を成功させています。1クラブや1団体だけでは出来ないことも、複数のクラブや団体が協力・協働して取り組むことでそれを可能にしています。また、このイベントは京都府民総合体育大会（以下、府民総体）の一環として実施しており、京都府教育委員会のバックアップもいただいています。当日は、府民総体オープニングフェスティバルが同日開催となり、グルメリレーマラソン参加者だけでなく大勢の方が来場され、毎年会場の賑わいを創出しています。



グルメリレーマラソンの開催種目と参加資格

【開催種目】

(1)リレーマラソン

「FUN RUN(仲間と走ろう42.195km)」をテーマに、1チーム6～14人での周回コース(計42.195km)をタスキリレーし、チームで完走する競技。走る順番や何周走るかは自由。

(2)シャッフルリレーマラソン

1～5人で応募し、大会当日に主催者側からの発表で1チームを編成して走るマラソン。走ることが好きな人同士が当日初めて出会い、完走を目的として一丸となるユニークな競技。

【参加資格】

(1)リレーマラソン

42.195km(2.1km×20周+200m)を1チーム6人以上14人以内のチームで完走でき、一人で1周2.1kmを自力で走れる小学生以上の男女。

(2)シャッフルリレーマラソン

一人で1周2.1kmを自力で走れる高校生以上の男女。

企業はイベントの運営、連絡協議会は広報活動 役割分担を明確化

第1回開催は連絡協議会から企業に声をかけ、企業と連絡協議会の二者のみの体制でスタートしました。企業とクラブが協働で事業を行うことの壁が大きく、企業と連絡協議会加盟クラブ有志が委員となった実行委員会の会議ではたくさんの意見のぶつかり合いがありました。全てが初めてのことで全員が手探りの状況で進めていったため情報共有がうまくできず、当日の運営ではスムーズにいかない場面が多々ありました。これは双方の役割分担の擦り合わせが不十分であったために起きたことだったと思います。第2回目からは第1回大会の反省を十分に行い、運営面、役割分担、双方の思いをしっかりと擦り合わせて取り組み方を大きく変更しました。その結果、企業はグルメリレーマラソン本体の運営を行い、連絡協議会は参加募集のための広報(府内総合型クラブへの案内や広報協力依頼、関係各所へのチラシ配布、ポスター掲示等)と当日のクラブ特設ブースでの取り組みに注力することになりました。広報活動では、連絡協議会加盟全クラブへチラシ・ポスターを配布し、広報活動への協力を得るほか、イベント当日には、連絡協議会から30名程度(連絡協議会加入7クラブのスタッフ含む)がスタッフとして携わっています。それぞれのやるべきことが明確になったことで、とても取り組みやすくなり少しずつ成果が表れてきました。目標としていた参加者3,000名という壁をなかなか越えられない苦しい時期が続きましたが、前回大会でやっと目標を達成し、3,394名の参加を得ることができました。三者それぞれが持っている強みを生かして様々な方面から広報を行い、リピーターを増やすために毎年少しずつ内容に変化を加えながら企画をしてきました。口コミにも期待し地道に続けてきた取り組みがようやく成果となり実ってきたものと思います。



4

継続開催でスタッフに意識の変化→集客目標に到達→収益

このイベントに取り組んだことで連絡協議会加入クラブの皆さんの意識に変化が見られました。連絡協議会の取り組みとしては参加者への広報とクラブ特設ブースでの企画・運営が中心でしたが、当初はこのイベントの狙いをなかなか理解してもらえず、クラブからの協力が得にくい状況にありました。しかし、継続して開催することで徐々に理解が深まり、協力者が増え、積極的に関わるクラブが増えていったように思います。クラブ特設ブースではドリンクや軽食などの販売をし、その収益を連絡協議会の財源の一部にしています。クラブの枠を超えて連絡協議会の財源確保のために自分たちの手で実際に収入を得るという経験は、連絡協議会の今後の発展に繋がるものだと感じています。集客目標の3,000名を達成したことで収益もあがり、目に見える成果が表れてきたことがモチベーションの向上に繋がっています。このことを通してクラブの枠を超えた連絡協議会の一員であるという意識が芽生えてきたように感じています。これは時間をかけて粘り強く取り組んでこられた皆さんの大きな成果だと思います。

最北クラブの関わり方が今後の課題

今年度で5回目を迎える大会となりますが、今後も永く継続して開催できるように取り組んでいきます。そのためには、まず、運営側が楽しむことが大切で、参加者はもちろんですがスタッフも楽しめるようなイベントにしていきたいと思っています。現在は、連絡協議会の総力を挙げた事業とまでは言えないのが現状です。京都府は南北に長く、最北のクラブから最南のクラブまで高速道路を利用しても3時間はかかるような地形であり、南部地域で行われるこのイベントに北部

地域のクラブとしての関わり方が難しいという課題があります。その部分をクリアできる工夫を図り、連絡協議会全体でこのイベントを盛り上げていくことができれば、連絡協議会としての結束力が生まれ、総合型クラブの認知度向上や連絡協議会の存在意義、クラブ間の交流や一体感が創出され京都府全体の地域スポーツの振興に大きく寄与できると考えています。総合型クラブの趣旨「誰もが気軽に楽しめる」に合ったようなイベントを目指します。

ちなみに、今年度開催の第5回大会は平成29年10月29日(日)に京都府立山城総合運動公園で開催します。さらにパワーアップした本大会を間近で見て感じて体験していただければ幸いです。

(京都府クラブアドバイザー 畑 由紀子)

◎第5回京都ご当地グルメリレーマラソン開催概要

【開催日】

2017年10月29日(日)

【コース】

京都府立山城総合運動公園 太陽が丘特設周回コース

【参加費用】

一人4,000円(大人)／3,500円(大学・専門学校生)／3,000円(中・高生)／2,500円(小学生)

※早割特典:7月31日(月)までにエントリーが完了した場合、上記金額より一人マイナス500円

【エントリー方法】

WEBでエントリー

※インターネットによるエントリーの場合、参加費用に加えて別途手数料が一人100円

※入金先着順の定員制の大会のため、入金時にエントリーが確定

※WEB以外で申込ご希望の方は、事務局へお問合わせ下さい





連絡協議会 プロフィール

設立年月日 平成17年5月29日

所在地 京都府

運営 加盟46クラブ（平成28年6月現在） 予算規模およそ140万円（平成28年度）

有給職員 0名

特徴 平成27年度から運営委員会が設置され、連絡協議会の自立に向けて取り組んでいる。連絡協議会は地域性で4ブロックに分かれており、それぞれで活動を活発に行っている。全ブロックそれぞれで協働事業（ブロック交流会）を実施するなど横の繋がりを強化し情報交流を活発にする取組を行っている。また、連絡協議会自身の体力をつけるための方策も検討し、グルメリレーマラソンなどのイベントを実施している。

連絡先 〒601-8047 京都府京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館3階
公益財団法人京都府体育協会内

電話番号 075-692-3423

FAX 075-692-3457

E-Mail club-info@kyoto-sa.com（代表）

URL <http://sports-net.kyoto-sa.com/>

特別企画

介護予防等の健康づくりに取り組むクラブ

NPO法人ひめさゆりくらぶ ＜福島県喜多方市＞

総合型クラブの活動は、地域住民へスポーツ活動を促す契機となり、地域住民の健康増進および体力づくりに大きく寄与することができます。また、総合型クラブが地域に根差し、必要不可欠な団体となるためにも、健康・医療など地域の諸課題を解決する公益的な事業を積極的に行うことが必要となってきます。

そこで今回は、高齢者向けのプログラム等の実施を通して健康づくりに取り組むクラブを紹介します。



1 クラブ概要

熱塩加納町は喜多方市の最北部に位置し、65歳以上の人口の割合が33%を超え、15歳未満の人口が約10%と典型的な少子高齢化地域です。それに伴い、高齢者の医療費の増大や子供たちの部活動の再編、スポーツ少年団の減少、地域住民の人間関係の希薄化というような問題を抱えていました。

こうした状況を踏まえ、スポーツやレクリエーション及び文化活動に取り組むことの機会や環境を提供し、子供たちの健全育成や、世代を超えた交流の場をつくり、元気で活気あふれる街づくりを目指すという理念のもと平成20年2月に設立されました。平成26年には経営の透明化と活動の充実を図るためにNPO法人格を取得しました。現在はスポーツを中心に町内の体育施設で活動しています。

主な活動としては、定期教室としてU12スポーツ少年団（多種目型スポーツ少年団）、フットサル教室、バドミントン教室（小学生以上）、家庭バレーボール教室（中学生以上）、グラウンドゴルフ教室、ピラティス教室（介護予防運動）の6種目で、その他に社会福祉協議会と連携した介護予防運動教室を不定期に開催しています。これらの教室はU12スポーツ教室とフットサル教室以外はすべてお茶タイム付きの教室です。



U12 合宿



U12 活動風景



U12 親子で奉仕作業

2 高齢者の集落に出向いて問題解決 近隣クラブから介護予防スタッフの派遣受ける

ひめさゆりくらぶが設立される際に、会員の住む地区に地域の課題についてアンケートをした結果、熱塩加納町は山間部の小さな集落が多く、交通機関も整備されておらず、高齢者が気軽に集える場所や機会が、徒歩や自転車で行ける距離にはないということが課題の一つとして挙がっていました。また、高齢化による医療費の増大も町の課題でした。設立時に事業計画を立てる際に、これらの問題を解決する方法はないかと話し合った結果、自分たちがその集落へ出向いて行って参加者が体を動かしお茶を飲んで、健康維持の場と交流できる機会をつくろうということになりました。

しかし、当クラブには介護予防運動をできるスタッフがいなかったことや、設立したばかりで、ひめさゆりくらぶについて理解している人はほんの一握りの人しかいないという問題がありました。そこで、指導者については近隣の総合型クラブに指導者を派遣してもらって活動することにしました。参加募集の手段は、開催地区の区長さんに趣旨を説明し、協力をお願いして、チラシの全戸配布と会員がその地区の知り合い一人ひとりに参加の声掛けをして参加者を集めました。

3

取り組み内容

① 医療費増大が端緒 4地区のセンターに出向き教室実施

熱塩加納町においても高齢化が進み、平均寿命と健康寿命との差があり高齢者の医療費増大は大きな問題となっております。ひめさゆりくらぶは、これらの問題を少しでも解決するお手伝いをしたいと思い、平成21年度から介護予防運動教室を開催してきました。

この教室は、できるだけ多くの方に参加していただくために、町の公民館ではなく地域の方が歩いて行ける場所で開催してこそ意義があると思い、毎年町内の4地区を選んで、各地区年1回その地区のセンターへ出向いて実施してきました。

② モデル地区ではピラティス教室を通年継続開催 体組成測定を採用する教室も

そんな中、ある60代の会員さんから、「自分の住む地域で、秋まで元気だった高齢者が春には寝たきりになってしまう方が何人もおり、自分たちの年代から介護予防のための運動をしていくのが大切だと思った」というお話がありました。この指摘を受け、介護予防運動教室は単発開催ではなく継続してやるべきだと考え、平成27年12月から平成29年3月までその会員さんの地区で、モデル地区としてピラティス教室を通年開催することになりました。ピラティスとは、無理のない動きで、背骨のストレッチを行い体の奥の筋肉を鍛え、骨盤のずれを矯正できるというものです。講師の先生は、会員さんからの紹介でお願いすることができました。

また、ひめさゆりくらぶでは、自分の体の状態を知ってもらって介護予防の大切さを意識付けし、健康寿命を延ばしてほしいということから、平成26年度より会津大学短期大学部の先生と連携して、グラウンドゴルフ教室の参加者の体組成測定を年2回実施し、測定結果を本人に渡してきました。すると参加者から練習前にラジオ体操をやろうという声上がり、教室の最初には必ずラジオ体操を行うようになりました。



③ クラブ不在地区では他クラブと合同開催

平成28年度には、うつくしま広域スポーツセンターの各種団体連携事業で、喜多方市にご協力いただき、やまとスポーツクラブと2クラブで、福島県レクリエーション協会と連携して、介護予防運動を喜多方市内で開催することになりました。

まず、うつくしま広域スポーツセンター・喜多方市・福島県レクリエーション協会・やまとスポーツクラブ・ひめさゆりくらぶの5団体が集まり、合計12回の教室をどのように開催するか検討しました。

現在の喜多方市内には総合型地域スポーツクラブは3団体しかなく、総合型クラブへの認知度は無いに等しい状況なので、クラブのない地域に総合型地域スポーツクラブというものを理解してもらえるようにするとともに、現在活動中の2クラブをPRする良い機会にしようと考えました。開催場所はクラブのない地区で、なおかつ今後自分たちが活動の輪を広げやすいように自分たちの近隣の地区を選んで開催しようという案が出されました。その結果ひめさゆりくらぶ、やまとスポーツクラブでそれぞれ拠点となる地区で4回ずつ実施し、残り4回をクラブのない地区で合同開催することになりました。

④ 知人紹介参加要請→クラブ不在地区でも認知度アップ

クラブのある地区ではクラブというものを認知していただいているので、対象の団体にチラシを配れば参加者を集めることができました。しかし、初めて開催する地区では、クラブへの認知度はゼロに近いので、参加者を集めるのに苦労しました。チラシを全戸配布してもらい、締め切り1週間前に集まり具合を確認すると、2～3人しか申し込みがないという結果でした。そこで、対象年齢の方が参加される公民館の教室のときに、説明とPRの時間をいただき、手分けして説明とPRをしました。それでもなかなか参加者が増えず、開催地区に住む知り合いの方に声掛けをして参加を呼び掛けてもらいました。

その結果、各地区10名以上の方が参加してくださり、総合型クラブのない地区の方にも、私たちの活動を知っていただくことができました。

また、参加された方にアンケートを実施した結果、「とても楽しかったので、定期的な活動として参加してみたい」という方が全体の90%を超え、今後活動の輪を広げていく上で、とても良い契機となりました。

4

健康への関心高まる→医療費増大の解決策の一助に

この活動に取り組んだことにより、地域の方の健康への関心が高まり、クラブへの認知度も高まりました。また、参加された高齢者の方々が少しずつ元気になっていく様子が感じられ、この地域の課題である「高齢者の医療費増大」の解決策の一助になっていると思います。さらに、社会福祉協議会からも教室の開催を依頼していただけるようになり、よりきめ細かな活動をするためのネットワークを結ぶことができました。

5

社協・行政と連携→身近で気軽な介護予防運動をサロンの場所提供も視野

喜多方市は今後ますます高齢化が進み、会場までの移動手段が徒歩や自転車という方が増えることが予想され、移動が面倒になり、引きこもりがちになって体を動かさなくなるという悪循環が生まれやすくなると推察されます。そこで、ますます身近で気軽に集える場所ときっかけづくりが必要になると思います。

これからは社会福祉協議会や行政とも連携しながら、徒歩や自転車で移動できる範囲で、ピラティスにこだわらず、レクリエーション体操やシナプソロジーなどいろいろな形で介護予防運動を行うことが大切であると考えます。サロンのようにお茶を飲んで集える場所づくりをきめ細かく展開したり、大学等の教育機関とも連携し体組成測定を組み合わせたりするなどの工夫も大切と感じています。介護予防の大切さをできるだけ多くの方に知っていただきながら、明るく元気なまちづくりのお手伝いができるクラブに成長するよう努力していきたいです。

6

財源・指導者不足が課題 地域に根差した活動を地道に推進

現在の大きな問題は財源と指導者の不足です。しかし、社会福祉協議会や行政、その他各種団体とも連携し、財源確保と組織強化を図るようにしていきたいと考えます。一人でも多くの方に参加していただけるよう、また、活動が継続できるよう、無理をせず地域に根差した活動を地道に進め、元気で明るい地域づくりを目指していきたいと思います。

(NPO法人ひめさゆりくらぶ 平林 ひろ子)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成20年2月29日（平成26年12月11日法人登記）

所在地 福島県喜多方市熱塩加納町

運 営 会員数101名（平成29年6月現在） 予算規模185万円（平成29年度）

有給職員 1名

特 徴 ひめゆりくらぶは市町村合併直前の熱塩加納村（現在の喜多方市熱塩加納町）に設立しました。合併しても、地域に密着した活動を進めていこうということで、村の花である「ひめさゆり」をクラブの名前に冠した。
熱塩加納町は人口が約2,600人という小さな町のため、参加者の取り合いにならないようにしながら既存の団体と競合しない内容の活動を実施している。
また、アスリートを育てるのが目的にクラブではなく、あまり運動が得意でない方も気軽に参加でき、子どもからお年寄りまで多世代の人が親睦を深めながら、活動を通して体を動かすことの楽しさを知ってもらい、健康推進につながることを目的に活動している。

連絡先 〒966-0103 福島県喜多方市熱塩加納町相田字大森5000番地

電話番号 090-7072-1310

FAX 0241-36-2478

E-Mail gmafvm25443@iphone.ne.jp

特別企画

介護予防等の健康づくりに取り組むクラブ



あまスポーツクラブ ＜愛知県あま市＞



総合型クラブの活動は、地域住民へスポーツ活動を促す契機となり、地域住民の健康増進および体力づくりに大きく寄与することができます。また、総合型クラブが地域に根差し、必要不可欠な団体となるためにも、健康・医療など地域の諸課題を解決する公益的な事業を積極的に行うことが必要となってきます。

そこで今回は、高齢者向けのプログラム等の実施を通して健康づくりに取り組むクラブを紹介します。



1

クラブ概要

あま市に総合型地域スポーツクラブ「あまスポーツクラブ」が設立されたのは4年前で、まだ足間もないクラブです。全国に次々と総合型地域スポーツクラブが設立される中、市長が掲げる「勇健都市」の名のもと本クラブがスタートしました。

当時のクラブマネージャーは木全克己さん。大学講師を務めており、認知症予防や高齢者・幼児期のスポーツの知識に明るく、地域での福祉活動も積極的に行っている方です。ご自身で講師も務める傍ら、地域のニーズを数値で細かく読み取り、設立に向けて講座開講の調整を行ってきました。

その後、「あま」の頭文字をとった、「あかるく元気にいつまでも」「まわりの仲間といつまでも」をスローガンに平成26年4月に8つの講座を開講しました。現在では年間を通して行う講座が20講座、短期で行う講座が10講座と、たくさんの方にスポーツ参加への機会を提供できるようになりました。現在約400名の方に参加いただいています。

2

介護年齢引き上げ目指しシルバー講座継続、運動と脳トレを実施

高齢者向けプログラムに取り組むきっかけとなったのは、地域の大きなニーズと介護年齢です。あま市では介護年齢を引き上げるべく、クラブ設立前から多くの団体が高齢者の支援活動を行っていました。しかし、活動はそれぞれバラバラで、参加費もまちまち、申し込む場所も様々で地域の方が参加しづらい状況でした。行政にも、様々な場所で行われている支援活動を統一し、分かりやすいものにしたいという思いがありました。

こうした背景から、当時のマネージャーである木全さんが中心となり、設立当初より「ライフワークフィットネス（現在はシルバーエクササイズ）」と題うって、講座を継続してきました。現在では30名を超える参加者の方と月に2回運動や脳トレを行っています。運動内容は、フラフープでの縄跳び、ラダー（縄梯子）を使っのステップ、ボール投げなど毎回違った動きを取り入れています。脳トレは、歌や手遊びのほか、左右の手で違う動き、色と動きを組み合わせた動きなどです。

一方で、参加したくても遠くて現地に行けない、講師不足で参加者のニーズに対応しきれないという問題も抱えています。解決に向け、地域高齢者サロンを訪問して現場のニーズや実際の声を聴くだけでなく、他クラブとも連絡をとることにより、指導者登録の拡大などを行っています。指導者が増加したことにより、講座の種目数が増え、委託事業を新たに受け入れる準備が整いました。クラブに安心して委託できるという認識を市の行政にも持ってもらえるようになっていきます。



3

苦心した講師確保 綿密な講師との協議 講師の会話も人気要因

講座の実施にあたり、一番苦労したのは講師の確保です。現在クラブで支払える謝金は1人あたり最高4500円と、ほとんどボランティアで講師を引き受けていただいています。納得いただける講師の方は少なく、多くの方に断られましたが、クラブ関係者に紹介してもらったり、愛知県内のクラブが加盟する連絡協議会であるSCネットワークあいちも活用したりして講師確保に努めました。

講座の実施までには、クラブで用意する聞き取りシート(活動日と時間、他に指導できる活動、代役の有無など)をもとに講師と話し合い、具体的なプログラム内容(1か月毎)、対象、目的などを教えていただきます。1日のプログラムの中には5~6種類活動を入れて、メリハリのある内容になっています。具体的には「2」でも一部触れたように、風船を膨らませて投げ受けを行う運動、ラダーを使って足元を鍛えての転倒防止運動、フラフープやストレッチポールを使った運動などです。講師の豊富な知識をもとにプログラムを組んでいただいているため、効果も確かに感じております。また、講師の楽しい会話も人気の要因になっています。



4

継続参加→交流の場→スタッフの団結力・目的意識が向上

この4年間で何度かローカルテレビがクラブの活動を取り上げてくれたことにより、たくさんの方に活動を知っていただくことができました。また、出来て間もないクラブの軸になる活動として今後も続けていこうとスタッフ全員が意気込んでおり、クラブの団結力やスタッフの目的意識の向上につながっています。

参加者の多くが継続して参加しているため、コミュニケーションの場、よい気分転換の場にもなっていると実感しています。会員さん同士が名前呼び合う姿を目にすると、活動してきて良かったなと感じます。

5

参加者が継続したくなる環境を提供 行政と連携し
地理的ハンデ解消へ

高齢者の健康増進を推進するために最も肝要なのは、活動の継続だと考えています。こうした講座を定期的に広い場所で開催し、参加者自身の意志では継続に至らない部分をサポートする役割を担っていきたいと思っています。

また、当クラブの理念でもある、「だれでも、いつでも、いつまでも、好きなレベルで」を達成していくことも大切な課題です。参加者の方が「やりたいな」と思ったときに気軽に手が届く「とき、場所、場合」を提供することをベースに、クラブづくりをしていかなければなりません。しかし、当クラブはあま市の中で端に位置するため、アクセス面から会員の方が気軽に参加できない事情があります。公共施設で受付のお手伝いをお願いするなど、クラブの目的遂行のためには行政の支援と理解が不可欠です。そのために、今以上に行政と密に連携を取り合いたいと考えています。



今後は他団体が行っている活動を積極的に請け負い、管理する場を集約していきたいと考えています。そのための課題が講師の確保であることから、現在クラブの運営に携わる運営委員にも、積極的に専門知識を身につけるための講習に参加するよう促し、指導者の資格等を取得してもらう予定です。

あま市に住む方がいつまでも元気に過ごし、「ここに住むと元気になる」と実感できるまちになるよう、今後も活動を続けていきます。

(あまスポーツクラブ 事務局 辻 萌)

クラブ プロフィール

設立年月日	平成26年1月26日
所在地	愛知県あま市
運 営	会員数241名(平成29年7月現在)、予算規模1,054万円(平成29年度)
有給職員	4名
特 徴	高齢者、次いで子どものクラブ参加の割合が高く、地域のニーズもその点に集中している。 平成28年度から「応援会員」という会員区分を新設。行政の方を拠点としてスポーツ講座を展開するのではなく、地域の公共施設を広く活用している。
連絡先	〒497-0006 愛知県あま市七宝町伊福宮東3-1 電話番号 052-442-5177 E-Mail ama-sports-club@clovernet.ne.jp URL http://ama-sports-club.jimdo.com



特別企画

若い世代が活躍するクラブ



マイマイスポーツクラブ ＜山形県川西町＞



持続可能な総合型クラブとなるためには、次世代を担う人材の発掘や育成を念頭に新しい人材を積極的に受け入れ、世代交代を図りながらクラブ運営に取り組むことが重要となります。

そこで、今回は、若い世代が活躍するクラブを紹介します。



1 クラブ概要

2000年に、地域内のスポーツ関係者を集め、公民館活動によるスポーツ拠点づくりの一環としての総合型地域スポーツクラブ設立に向けた勉強会を行いました。「なぜ、今までのような公民館活動ではダメなのか?」、「会費を払ってまでスポーツをやりたいと思うのか?」—様々な意見が出されました。当時は、少子高齢化や人口減少についてのスポーツ関係者の意識もまだ薄く、既存の形でそれぞれのスポーツ活動が維持できると考えていました。

その結果、公民館では、既存のスポーツ団体の巻き込みを断念し、地域の「親子」を対象に家族の絆や仲間づくりを目的としたクラブ運営ができないかと考え、小学生や中学生、その保護者を対象にしたアンケートを実施しました。

「日常生活の中で保護者同士や親子でスポーツを楽しみたいか」、「会費は一カ月当たりどれくらいだったら払ってもいいか」—など、クラブ設立に向けた調査をした結果、回答者の8割以上が「スポーツをやってみたい」という答えでした。

そこで、クラブ設立のトライアルとして、「親子スポーツ教室」を3年間、受益者負担型のスポーツ教室として開催しました。その間、指導者の確保やスケジュール管理、用具の整備等を行い、クラブ設立に向けた準備委員会を立ち上げ2004年にマイマイスポーツクラブが誕生しました。

なお、クラブは、全世帯加入の「NPO法人きらりよしじまネットワーク」(以下きらり)の組織内組織として位置付けられています。



2

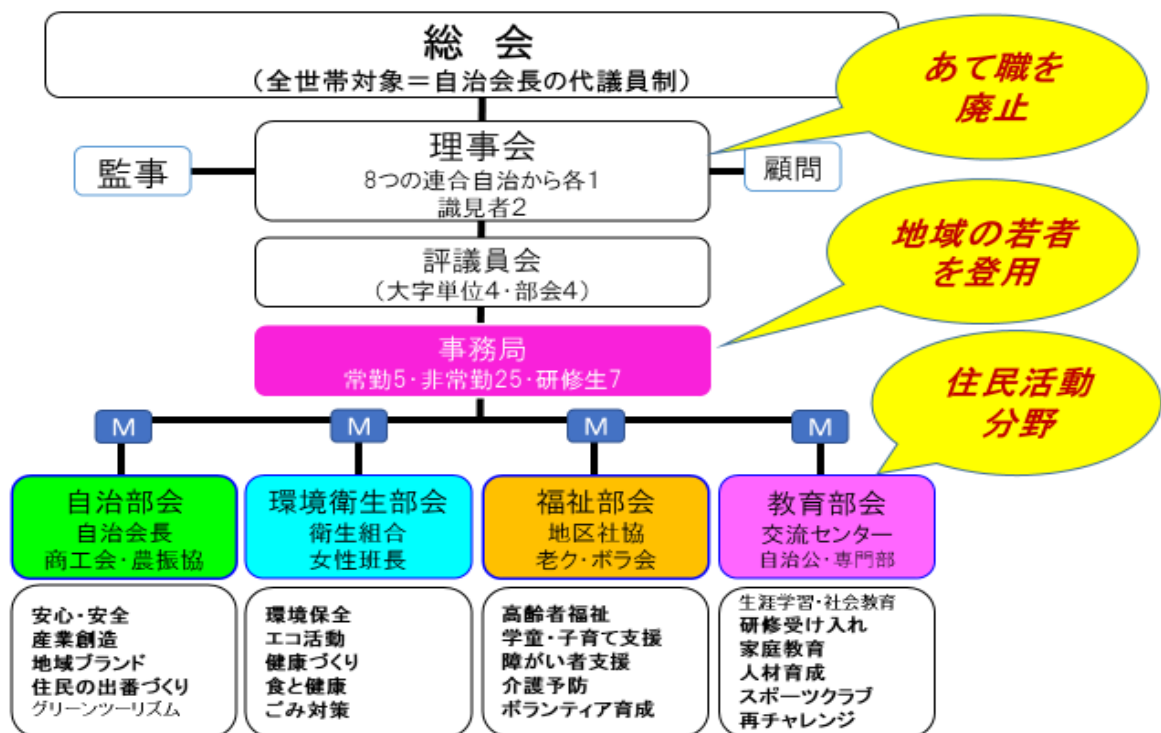
若手を発掘・育成する仕組みを確立 → 継続的運営が可能に → 円滑に世代交代

持続可能な地域づくりを行うには、上手に世代交代をしなければなりません。そのためには、継続して地域づくりに関わる人材の確保と、人材育成のための仕組みが必要となります。強いリーダーが一人いたとして、その人が地域づくりの中心から離れても地域の運営が継続的に進めるような体制をつくる必要があります。きらりでは、NPO組織の維持継続のために、自治会長を巻き込んだ住民ワークショップ（地域づくりの課題や解決策を議論する場）で地域づくりにあたる若手人材の発掘と育成の仕組みをつくりました。

22の自治会から、クラブが属する教育部会に18歳から35歳までの若者を専門部として推薦する制度があり、同制度を通じて、地域の若い力が組織に集約されるよう体系化しています。これまで地域を眺めているだけだった「観客側」ではなく、地域運営組織の一員として活動に実践参加してもらい、それぞれの成長段階で研修を受け、人によっては各部会のマネジャーへと養成されていきます。この時、人材育成を一つのつながりを持ったストーリーとして捉えることが重要です。そうすることで、人材が生まれ、育てられ、上手に世代交代する仕組みとして定着していきます。

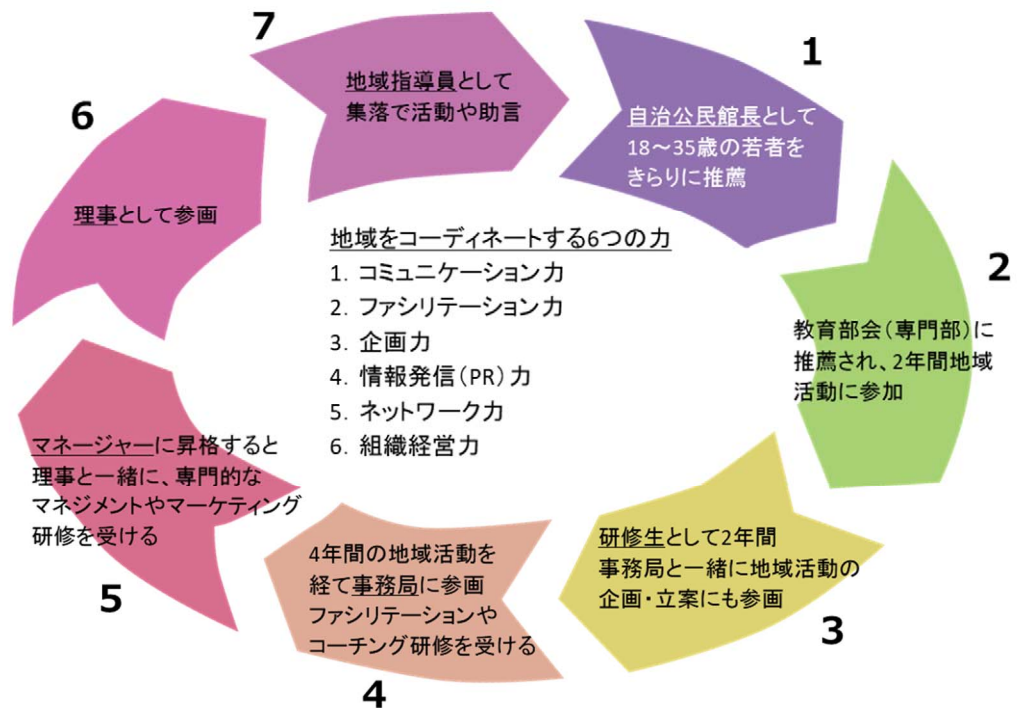
NPO法人きらりよしまネットワークの組織図

地域づくりの担い手として、事務局に若者を登用していることが分かるように組織図を作成しました。



人材確保から育成までの流れを示すステップアップの図

組織運営を上手につなげるために育成プランをつくり、人が生まれ育つ環境を仕組み化する流れが分かるようにステップアップ図を作成しました。



3 活動する人材を「マネジャー」「プレーヤー」「リーダー」に分類

持続可能な魅力のあるクラブづくりは、住民が地域の将来について「考える」、多様な補助金や助成金などお金の使い方を「考える」ことで、地域のブランドや住民のアイデンティティー（共同体・主体性）を生み出します。それは「住民が自ら設定した目標を達成することによって地域づくりが高められていく」仕組みであり、さらには住民自らが活動のステージを見だし、参加することによって、地域づくりの成長と変化を繰り返すことで、より多くの人の巻き込みや出番を創出していくと考えます。

地域づくりに取り組むクラブには、どのような人材が求められているのかを考えることが必要です。きらりでは、事業や活動に広く住民を巻き込みコーディネートする「マネジャー」と、地域活動や事業に参加する「プレーヤー」に分類し、人材を確保・育成しています。

これまでは、コーディネートする人とプレーヤーとして活動する人が混在していて、運営疲れが生じることもありました。それぞれの役割を分担しプレーヤーが安心・集中して活動できるようマネジャーがコーディネートすることも肝要となります。

- ・ マネジャー 組織を円滑に経営（コーディネート）するための人材
- ・ プレーヤー 組織が行う事業を円滑に運営するための人材
(住民が自由に参加でき、リーダーを創出する場でもある)
- ・ リーダー 事業に関わる住民をうまく取りまとめられる人材

4 「組織内のネットワーク強化」「活動人口の増加」が努力目標

地方の地域コミュニティは今後、ますます高齢化と人口減少が加速していきます。そうなれば、地域の活動人口も減少していきます。

限られた人材で事業や組織運営が余儀なくされるため、組織内部のネットワーク（つながり）の強化を図り、外の支援と上手につなぐって組織や地域の存続に努めなければなりません。

多様な分野の人々と交流できる地域の受け皿づくりと、折に触れその地域を訪れ、活動に参加してくれる「交流から生まれる活動人口」の増加に取り組む必要もあります。

また、日常生活圏のクラブ間のネットワークを組織化し、相互補完しながら複数の力で課題解決ができる地域づくりの一助を担う総合型地域スポーツクラブとして自立することが必要であると考えます。

(マイマイスポーツクラブ 事務局長 高橋由和)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成16年6月16日

所在地 山形県川西町吉島地区

運 営 会員数 一般会員110名（平成29年8月現在）、高齢者会員250名

予算規模 約60,000千円（平成28年度）

有給職員 6名

特 徴 吉島地区の全世帯（723世帯/人口約2,500人）が加入するNPO法人が「きらりよしじまネットワーク」です。地域課題を解決するため4つの部会を構成し、その一つの教育部会の中に、総合型地域スポーツクラブ「マイマイスポーツクラブ」が事業化されています。「きらり」では、地域住民のスポーツや介護予防の拠点として、受益者負担のクラブ経営を行っております。クラブ運営や地域づくりには、地域の若者を組織の事務局として体系化し、常勤・非常勤合わせて約30名の若者が地域づくりのエンジンとして企画・運営・コーディネーターとして活躍しています。

連絡先 〒999-0214 山形県東置賜郡川西町大字吉田5886-1

TEL 0238-44-2840 FAX 0238-44-2841

E-Mail kirai-npo@e-yoshijima.org

URL <http://www.e-yoshijima.org/>

特別企画

若い世代が活躍するクラブ

わくわくクラブおおやまざき ＜京都府乙訓郡大山崎町＞

持続可能な総合型クラブとなるためには、次世代を担う人材の発掘や育成を念頭に新しい人材を積極的に受け入れ、世代交代を図りながらクラブ運営に取り組むことが重要となります。

そこで、今回は、若い世代が活躍するクラブを紹介します。



1 クラブ概要

町教育委員会主導の下、平成17年8月に町体育協会・スポーツ推進委員協議会（当時体育指導委員協議会）・長寿会・スポーツ少年団指導者・小中学校PTA・社協等の担当者が集まり、2年間の研修や既に設立されている府内外クラブの視察等の活動準備期間を経て、19年2月26日「わくわくクラブおおやまざき」を設立しました。

「スポーツではじける笑顔 あしたの元気」をスローガンに多世代・多種目・多志向といった多様性をもって、地域住民同士のつながりを目指しています。また、会員の意見を充分に取り入れ、参加されている会員の皆様に満足していただける活動を模索しながら今年10年目を迎えることができました。

設立当初から町スポーツ振興の中心である、町体育館の事務所を拠点とし、町教育委員会生涯学習課の行政と共に、当クラブの運営や各種事業の推進を行い、町行事にも協力しながら活動を行っています。

現在、小学生から高齢者まで73名の会員が登録されていて、小学生中心のスポーツ教室（11種目）、大人のスポーツ教室（1種目）を年間通して開催。各種スポーツ教室の指導は、町スポーツ少年団・中学校の部活動（先生、中学生が指導）・町既存クラブにお願いしています。

また、毎月2回(8月は無し)町体育館と小学校体育館(2ヶ所交互)を借りて「サタデーナイト」と銘打って土曜日の夜に卓球・バスケットボール・バドミントン・ニュースポーツ等、地域住民を対象にしたスポーツ開放事業も開催しています。

上記活動と並行して設立準備時より続いている親子参加型のイベントもあります。人気のカヌー教室(京丹波市の和知川の川下り)、春ハイキング、秋バスツアー(28年度は宮津湾での地引網)、冬のスキー教室と毎年定番の事業も開催し、会員やイベントのみの参加者同士のつながりを目指し活動しています。

2 高齢化でスタッフ減少→高校・大学生に依頼 青年団体をクラブ下部組織に吸収

クラブ概要に記した様に、設立するにあたり各団体から協力スタッフが集められましたが、総合型クラブに対する意識の差もあり、設立準備時のスタッフも減少し、設立当初は40代半ばのスタッフ数名が中心となり活動を続けていました。しかし年数が経つにつれ、スタッフの高齢化、活動に伴う負担から仕事をもちながらの活動が難しくなり、スタッフの数が減少していきました。スタッフの減少はクラブを継続するにあたり致命的で、各協力団体にスタッフの要請を依頼したり、成人会員の方にもお願いするなどの努力を試みましたが、自分の時間を割いてまで協力してもらえるボランティアスタッフが見つかりませんでした。

スタッフを探すのであれば、これからの活動継続を見据え、この際、若者にお願いしてみようと思い、その当時高校生だった一番身近な私の息子(現在、当クラブの事務局長)に声をかけました。息子はその頃、高校生・大学生を中心に活動する青年リーダー会「ゆうやけ」というボランティア団体に所属。「ゆうやけ」は、大山崎町教育委員会が実施する青少年健全育成事業である小中学生対象の「ジュニア・リーダー養成講習会」をサポートしていました。なお、45年前に当クラブ会長が参加して設立した団体が「ゆうやけ」です。

それまでの青年リーダー会「ゆうやけ」での活動内容と、会員からの会費を元に運営をする総合型クラブの事業では内容が異なり、難しい選択であったとは思いますが、説得の末に主要事業を手伝ってもらえることとなりました。幸い「ゆうやけ」の同級生メンバー3人の協力も得られ事業継続につながりました。

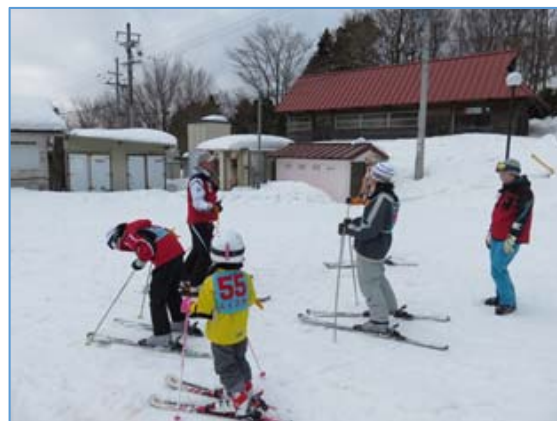
ただ、正規のスタッフではないので先行きに不安を抱えたまま活動を行っていました。そのような状態が続く中、彼らも大学を卒業し、「ゆうやけ」も後輩に引き継いだ3年前の平成24年に突然、町教委が「ジュニア・リーダー養成講習会」を他の事業に転換。42年間続いた「ゆうやけ」の活動の場が失われることになりました。そのような時に「ジュニア・リーダー養成講習会」事業継続のため、当クラブも共に折衝にあたりましたが、希望はかないませんでした。

しかし、今まで培ってきた彼らの子どもたちへの指導技術、経験を生かせる場をつくろうと話し合い、「ゆうやけ」を当クラブの下部組織として吸収しました。さらに「ジュニア・リーダー養成講習会」も、当クラブの事業の一環として存続させることにしました。こうした経緯でクラブスタッフの若年化を図れたのですが、活動の中心である大半の大学生が来年就職するため、スタッフ確保という課題は今後も続きそうです。

29年8月現在、実質活動スタッフの内訳は社会人9名、主婦4名、大学生10名です。



カヌー教室



スキー教室

3 若手が豊富なアイデア提案→会員が1年でほぼ倍増

前述の「ゆうやけ」スタッフの参加により、「ジュニア・リーダー養成講習会」に参加していた小中学生達がクラブ会員として増加。その相乗効果として保護者の方々にもクラブに興味を持っていたいただき、子どもと一緒に各種事業に参加される様になりました。また、事業計画・内容に関しても若い世代からのアイデアが豊富に盛り込まれるようになり、中高年スタッフとの会議や話し合いも活発化する傾向となっています。世代間の考え方が違い、意見の衝突がたびたび起こりますが、お互いしっかりと話し合って計画を進めています。もっとも、最終的には若者の意見が通ることが多いのが実情です。

設立当時の会員数は200名近くでしたが、5年の間に約60名に減少。しかし、若いスタッフの参加により会員数がわずか1年で約110名に増員しました。若いスタッフの豊富(突拍子)なアイデアがクラブ活動に注入され参加者を楽しませているだけでなく、「自分たちも一緒になって楽しむ」というスタッフの行動力が参加者に受け入れられていると思います。

私を含め中高年スタッフはどうしても参加者をお客さんとして迎え入れる傾向があり、会員や参加者とのコミュニケーションという、クラブ本来のあるべき姿を見失いがちになっていたため、若いスタッフの意見を尊重して事業を遂行しております。一方で若手スタッフは、中高年スタッフの意見にも耳を傾け、より良い事業にしようと創意工夫してくれています。

4

人材確保と育成が重要課題

「ジュニア・リーダー」が将来スタッフになることが理想

クラブを持続させていくには、やはりスタッフの確保と育成が一つの重要なポイントでしょう。また、会員が運営に参画していくというクラブ本来の目的も大切だと思います。いくらスタッフの人数が多くても活動内容の主旨を理解していないスタッフでは成り立ちません。そうなると会員数も減少傾向に陥るでしょうし、スタッフが少数になってしまうと参加者の活動に目が行き届かない部分が生じてしまいます。当クラブは青年リーダー団体の協力が得られましたが、今後スタッフとして継続してもらえるかが課題として残ります。設立から10年が経ち、地域の方々にクラブの存在も知られるようになってはいますが、今まで以上に地域住民に密着していくような活動が必要と思われます。会員募集時には行事チラシを活用するなど常に頑張っておりますが、会員へのスタッフ参加呼びかけを継続することも大切と考えます。

今後の長期展望ですが、クラブ活動として取り入れた「ジュニア・リーダー養成講習会」参加の小中学生が青年リーダー会「ゆうやけ」に入り、当クラブのスタッフとして活躍してもらえれば最高です。その道筋が確立されるまでは、現在活動しているスタッフで頑張っていこうと思います。

(わくわくクラブおおやまざき 会長 吉田 修)



ジュニア・リーダー養成講習会

クラブ プロフィール

設立年月日 平成19年2月26日

所在地 京都府乙訓郡大山崎町地区

運 営 会員数73名（平成29年8月現在） 予算規模200万円（平成28年度）

有給職員 1名

特 徴 大山崎町は、京都府南西部に位置し大阪府に隣接、戦国時代に豊臣秀吉軍と明智光秀軍との天下分け目の合戦の地、天王山の麓にある南北に延びる約人口16,000人の町です。昔から京都～大阪の交通の要所で、東側に宇治川・木津川・桂川の三川合流（合流後淀川になる）があり、西側の天王山に挟まれた自然に恵まれた地域です。当クラブは、スポーツ・レクリエーション・文化等あらゆる活動を行いながら、青少年健全育成及び地域住民のコミュニケーションづくりを目指しています。

連絡先 〒618－0091 京都府乙訓郡大山崎町字円明寺小字一丁田50番地
大山崎町体育館内 わくわくクラブおおやまざき
電話番号 075－956－0567
Facebook 「わくわくクラブおおやまざき」
<https://ja-jp.facebook.com/Wakuwakukurabuoyamazaki/>

特別企画

「自然災害に対する取り組み」

徳島県総合型地域 スポーツクラブ連絡協議会 ＜徳島県＞

いつ、どこで発生するか分からない自然災害に対し、準備や対策ができるか、また災害発生地域に対し、どのような支援ができるかを考えることは、地域の諸課題解決に向けた取り組みとなり、より地域に根差したクラブとして定着することにつながる可能性があります。

そこで、今回は、自然災害の発生に対して、連絡協議会が実施した防災対策や被災地支援等の取り組みを紹介します。



1 連絡協議会の概要

徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（以下連絡協議会）は、総合型クラブ間における情報交換や交流の活性化を図り、徳島県の生涯スポーツの推進を図ることを目的としています。設立当初から県内すべての総合型クラブが加盟しており、現在35クラブが加盟し、総会員は約9000人です。

主な活動は、次のとおりです。

事業名	事業概要
総合型クラブ交流等助成事業	総合型クラブが交流を目的に開催する事業に対して助成
研修会開催事業	総合型クラブの資質向上や課題解決につながる内容の研修会を年1回開催
顕彰事業	功労者・優良団体・貢献団体・スポーツボランティアの4種類の表彰を実施
総合型クラブ交流大会in徳島開催事業	ソフトバレーボール交流大会を県域を越えた参加者を募り開催
絆プロジェクト	被災地支援活動として実施

2 被災地のニーズ考慮、他団体と連携し各種支援を実施

2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、想像をはるかに超えた甚大な被害を目の当たりにし、連絡協議会として、何ができるのかを真剣に考え、次のようなアクションを始めました。アクションを起こすにあたり、徳島県連絡協議会としてできること、他団体との連携でできること、現地で必要とされている支援は何かーなどを考慮し支援を実施しました。

● 「リユースうちわ」を送付

東日本大震災時に県内の連絡協議会加盟クラブに呼びかけ、「リユースうちわ」を7000本収集し、東北3県(岩手県・宮城県・福島県)の広域スポーツセンターへ震災4カ月後の7月に一括送付しました。避難場所等で暑い夏を過ごす被災者に配慮し、各家庭から集めやすくクラブ負担も少なく済むうちに決めました。

また、2017年7月に発生した九州北部豪雨被害の際は、福岡県朝倉郡東峰村役場宝珠山庁舎にリユースうちわ200本や書籍などを贈りました。

● お手玉も寄贈

仮設住宅では運動不足になりがちで、運動による交流促進のためにも、徳島県婦人団体連合会と連携して、東日本大震災の被災地である岩手県陸前高田市米崎中学校仮設住宅自治会宛てにお手玉を8月に350個送付しました。また、連絡協議会の加盟団体である勝浦町のNPO法人K-Friendsと連携し、勝浦お手玉演舞の会に協力を依頼して、お手玉演舞(童謡や民謡に合わせてお手玉をしながら舞うもの)のDVD映像を作成し同仮設住宅に送付しました。お手玉実践の手助けになると考え、映像を作成しました。

● 防災フォーラムの開催

連絡協議会事務局が調整の上、県社会福祉協議会助成事業を活用し、岩手県陸前高田市米崎中学校仮設住宅自治会の金野廣悦自治会長を招聘(しょうへい)したフォーラム・研修会を、県内3クラブが主体となって3年間継続して実施しました。参加者は平成26年度が約200人、27年度が約100人、28年度は約450人でした。

● 被災地に徳島特産物「すだち」を贈る

連絡協議会と連携が密な「えがお+for kids sports」と協力し、平成24年度から岩手県陸前高田市米崎中学校仮設住宅自治会に毎年継続して徳島の特産物「すだち」を約400個贈っています。昨年は熊本地震が発生したことから、熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会にも200個贈りました。

徳島の特産物すだちを被災者に食べてほしいと思っていましたが、なかなか着手できませんでした。そんな時に、総合型地域スポーツクラブの活動を支援してくれている、「えがお+for kids sports」のメンバーから、「収穫時期を逸したすだちは放置できないが、収穫するための人手がないので収穫してくれるなら提供する」という申し出がありました。子どもたちと共にすだち狩りを楽しみ、震災について考える取り組みも兼ねてすだち狩りを行い、送付することができました。

● リサイクルバザーで義援金を寄付

平成25年度から毎年継続して、総合型地域スポーツクラブ交流大会in徳島の開催時にリサイクルバザーを実施し、その売上金の一部を日本赤十字社に義援金として寄付をしています。

● 「熊本に想いを届けよう」プロジェクトの実施

連絡協議会加盟クラブであるNARUTO総合型スポーツクラブが熊本県への支援活動を始めたことをきっかけに本連絡協議会のプロジェクトとして、①お菓子付きメッセージカードの作成 ②「リユースうちわ」の収集 ③すだちの収穫 ④各総合型クラブにて支援金の募集を行い、熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を通じて熊本県内の総合型クラブへ配布しました。

また、総合型地域スポーツクラブ交流大会in徳島2017において、NPO法人桜木ふれあいスポーツクラブ(熊本県)のチームを招待しました。

3

「あの日を学ぶ交流の輪」事業を今夏実施

熊本の被災小中学生を招き、学びと交流を目的に交流事業を実施

連絡協議会は、微力ではありますが被災地とのつながりを大切に、できることを行ってきました。また、NARUTO総合型スポーツクラブが熊本県に対して積極的な支援活動を行っています。こうした流れもあり、「近い未来、徳島に起こりうる南海トラフ巨大地震に備え、徳島の子どもたちに学びと交流の機会を創りたい」(NARUTO総合型スポーツクラブ 山本クラブマネジャー)という思いから、本事業に着手することになりました。

連絡協議会が主催、NARUTO総合型スポーツクラブが主管となり、関係機関との調整、会場確保やスケジュール等の事業計画、財源確保等の取り組みを進めました。この過程で複数の団体との連絡調整がうまくいかず、明確な役割分担ができないという事態に陥りましたが、山本クラブマネジャーのリーダーシップと行動力で事業をやり遂げることができました。何よりも、子どもたちの交流の輪を広げたいとの強い思いがあったからこそ、苦勞を感じることはありませんでした。



《 あの日を学ぶ交流の輪事業 概要 》

期 間 平成29年8月11日(金)～14日(月)

場 所 徳島県鳴門市 鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホール他

参加者 (1)事業参加者 熊本県28名(小中学生21名 スタッフ7名)
徳島県54名(小中学生25名 スタッフ29名)
宮城県 3名(大学生2名 講師1名)

(2)研修会参加者 43名

開催趣旨 日本各地で相次ぐ地震、集中豪雨など自然災害に効果的に対応するため、今こそ真の連携・協働の実現が求められています。

そこで、昨年4月の熊本地震で被災した熊本県の小中学生を徳島市に招き、徳島県内の小中学生と防災について考える「防災合宿」を初めて実施しました。被災経験者と直に交流することで、子どもたちの防災への意識が高まり、将来発生が予測される災害時には何が大切なのかを学ぶことができました。

開催内容 【8月11日(金)】

熊本県から来県した21名の子どもたちは、早速、鳴西連と合流し、阿波踊りを練習し、鳴門市内の栈敷(演舞場)に流れ込みました。

【8月12日(土)】

徳島県から参加の25名の子どもたちと合流し、一緒にレクリエーションゲームやスポーツリバーシなどを楽しみ交流を深めました。午後から子どもたちは、鳴門市黒崎地区の住民の方と昼食をとりながら、東日本大震災を経験した大学生の経験談を元に意見交換をしました。

また、同時進行で「あの日に学ぶ研修会」を開催し、齋藤久允さん(熊本県:ひかわスポーツクラブ)と萬代好伸さん(宮城県:(公社)みらいサポート石巻)を講師に、被災の状況や被災後の復興に向けた活動など現地の辛苦を知ることによって多くを学びました。夜は、徳島市内の阿波踊りを見学し、阿波踊り通じて徳島の文化にふれました。

【8月13日(日)】

「子どもフォーラム」と題してダッシュ隊徳島が進行を務め、被災時の映像や写真を見たり、被災者の体験談を聞いたりした後、グループで被災を想定した対応の仕方を考え発表しました。フォーラム後は、バーベキューパーティーで交流最後の夜を楽しみました。

【8月14日(月)】

熊本へ帰る日の朝、子どもたちは一緒に遊んだり、ダンスをしたりして、限られた時間を楽しみました。



阿波踊り体験



スポーツ交流



子どもフォーラム



子どもフォーラム



バーベキュー

4

被災体験者との交流の輪が促進 防災・支援活動への意識高まる

山本クラブマネジャーの想いに耳を傾けて今回の事業を遂行したことにより、「子どもの交流の輪づくり」と「県域を越えた総合型地域スポーツクラブ間の交流の促進」にもつながった有意義な取り組みとなりました。

事業実施後、徳島の子どもたちの中から「熊本の子とラインで連絡取り合っているよ」「家族で防災グッズを見直したよ」などの声が聞こえてきます。また研修会参加者へのアンケートでは、「講師の『支援に感謝しつつ、自律していくことが大切』という、この想いに心が揺れました」「復興支援の軌跡の取り組みから、クラブの力が、子どもたちの被災を受けた心身の助けになっていることに感謝したい」「自分の命は自分で守り、災害を語り継ぐ必要性を再認識させていただいた」「スポーツクラブとして支援活動を継続していることがすごい。自分たちのクラブでも検討していきたい」などの意見があり、今なお学びがつながっています。

5

活動が課題解決に有効—再認識 経験生かし基本目標を推進

本事業の実施を通じて、「被災地支援」「子どもの健全育成」「関係機関との連携促進」「交流人口の促進」などの社会課題の解決に、総合型地域スポーツクラブの活動が有効であることを再認識しました。また、行政支援が行き届かない場面に際し直接的、かつタイムリーに行動できる力があることも再確認できました。

連絡協議会では、本年度より徳島県スポーツ推進計画の諸施策の展開を支援するために「スポーツウエーブプラン」を推進していきます。

本事業の経験を生かして、4つの基本目標の一つとして、「ボンドスポーツ(スポーツを通じた“絆”づくりの推進)」を掲げています。

県内クラブが連携を深め、県域を越えたクラブと交流し、スポーツを通じたつながりと「お互いさま」によるネットワークづくりができる団体になれるようチャレンジしていきます。

徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会事務局 西村知泰
徳島県 県民環境部 県民スポーツ課(徳島県広域スポーツセンター担当) 係長

スポーツウェブプラン骨子

【基本目標】

ハートフルスポーツ【スポーツを通じた「心の豊かさ」づくりの推進】

スマイルスポーツ【スポーツを通じた「えがお」づくりの推進】

ボンドスポーツ【スポーツを通じた「絆」づくりの推進】

アタッチメントスポーツ【スポーツを通じた「郷土への愛着」づくりの推進】

【今後の取り組みの視点】

子どもの笑顔を育みます。

社会課題の解決にスポーツを通じたアプローチをします。

ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。

総合型地域スポーツクラブの質的充実に取り組みます。

連絡協議会プロフィール

設立年月日 平成21年3月17日

所在地 徳島県鳴門市

運営 加盟クラブ数35(平成29年10月現在) 予算規模602,000円(平成29年度)

特徴 本連絡協議会は、運営委員会で事業を推進しており、女性の委員が多く、その女性委員のソフトで繊細な心配りと笑顔が、加盟クラブの交流を深めるとともに、事業の円滑化を図っている。

また、事務局は広域スポーツセンターが務め、センター運営は、(一財)徳島県スポーツ振興財団と県民スポーツ課が担っており、官民一体となって総合型地域スポーツクラブ活動を支援している。

連絡先 〒772-0017 徳島県鳴門市撫養町立岩字四枚61番地
鳴門・大塚スポーツパーク 徳島県広域スポーツセンター内
TEL: 088-685-4021 FAX: 088-685-4022
E-Mail kouiki@awa-spo.net



特別企画

知的障がい者の受入に向けた基礎的情報

障がいのある方を総合型クラブで受け入れることは、地域課題の解決にもつながり、社会的に認められる総合型クラブへつながっていくものと考えられます。本年度のブロック別クラブネットワークアクション2017※では総合型クラブによる障がい者の受け入れに向けた取り組みを促進することを目的に、共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」を行いました。

そこで、今回は共通プログラムで情報提供を行った「知的に障がいのある方がクラブ活動に参加する際の準備事項や指導上の留意点」等について鳥取県障がい者スポーツ協会の山下忍氏に執筆いただきました。



1 知的障がいとは

「知的機能の障害が発達期(おおむね18歳まで)にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にあるもの」(厚生労働省実施の知的障害児(者)基礎調査における定義)※「知的障害者」の定義規則はありません。

知的障がいは「知的機能(IQ)」の数値のみによって診断が下されるのではなく「適応機能」等日常生活能力や、社会生活能力、社会的適応性などの能力を測る指数も併せて診断が下されます。

知的障がいの診断は医療機関や地域によって異なりますが、一般的に「知的機能」と「適応機能」の評価で「軽度」「中度」「重度」「最重度」の4つの等級に分類されます。



- **軽度知的障がい**

おおむねIQが50～70の知的障がいを指します。食事や衣服脱着、排せつなどの日常生活スキルには支障がありません。しかし、言語の発達がゆっくりで、18歳以上でも小学生レベルの学力にとどまることが多いです。

- **中度知的障がい**

おおむねIQが35～50の知的障がいを指します。言語発達や運動能力の遅れがあります。身辺自立は部分的にはできますが、全てをこなすことは困難です。

- **重度知的障がい**

おおむねIQが20～35の知的障がいを指します。言語、運動機能の発達が遅く、学習面ではひらがなの読み書き程度にとどまります。情緒の発達が未熟で、身の回りのことを一人で行うことは難しいので、衣食住には保護や介助が必要になる場合があります。

- **最重度知的障がい**

おおむねIQが20以下の知的障がいを指します。言葉が発達することではなく、叫び声を出す程度にとどまることがほとんどです。身の回りの処理は全くできず、親を区別して認識することが難しい場合もあります。しかし、適切な訓練によって、簡単な単語を言えるようになるケースもあります。

2 プログラム参加にあたって必要な情報とは？

障がい者を受け入れるにあたって事前に知っておくべき基本的な情報が何点かあります。まず、他の障がいと知的障がい重複している場合が少なくありません。また、情緒が不安定だったり、認知能力や集中力の劣弱が目立つこともあります。このような場合、指導場面を人的、物的に整備するとともに、知的障がいや身体障がいよりも情緒的問題行動などを十分視野に入れた指導が効果的であり、保護者の協力も欠かせません。

中国ブロッククラブネットワークアクションの共通プログラムのワークでは、「発語はどうか」、「合併症や重複障がいはあるか」、「運動制限はあるか」、「介助が必要かどうか」、「生活自立はどうか」、「興味のあるものはなにか」、「感覚過敏はあるか」、「てんかんはあるか」、「理解度はどうか」、「コミュニケーションはどうか」、「スポーツ歴はあるか」などが必要な情報ではないかとの意見があげられました。これらの他にも、こだわりや配慮が必要なことはないか、発作の起きる要因や嫌いなもの、怖いもの、同性・異性、禁忌事項など、気になったことや「これは？」と思ったことは必要な情報に入れたほうがよいでしょう。

3

どこに、どのような情報を聞き、相談するのがいいか？

【情報収集先について】

- 本人、親、家族
- 専門学校、短大、大学等の保育、特別支援教育に関する学部の関係者（各学校で障害児運動サークルを開催している場合が多い）
- 市町村の障がい者支援課所属のケースワーカー等（健康の維持・増進や余暇活動支援という点で協力を得られることがある）
- 施設職員（入所・通所施設、就労生活支援センター、スポーツセンター等）
- 医師、理学療法士

参考までに、中国ブロッククラブネットワークアクションのグループワークで出た意見をご紹介します。本人、親、家族など身近な方々から話を聞き、それぞれ専門的な情報は体育協会、障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導員、障がい者団体、医師、理学療法士などに相談し、教室を運営するスタッフ間などで共有することが大切という話になりました。

【指導者の確保について】

各都道府県の障がい者スポーツ指導者協議会、競技団体、障がい者スポーツ協会等

【用具、会場について】

各都道府県の体育協会、障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者協議会、スポーツセンター等

4

プログラムに参加する際の事前準備や指導上の配慮・留意点

● 小集団による指導を中心に

一般的に、スポーツの場では、知的障がい者を単なる一つの集団として扱うことが少なくありません。この知的障がい者の集団には精神遅滞の程度の差や自閉症のような社会的行動に障がいが顕著な者など様々な特性がある者が含まれることが多くあります。そこで、小集団による指導を中心にしながら、集団の中で得る様々な経験を習得させることが、スポーツ指導の重要な要素であることを理解していなければなりません。

● ゲーム感覚で楽しめる内容がベター

障がいのない子ども達と同じように、幼児期には競技に特化せずゲーム感覚で楽しめる内容のものが好ましいのではないのでしょうか。ダンスなどは、一定の振り付けがあるものもありますが、音楽に合わせて自由に身体を動かせるので人気です。また、障がいの程度等によって内容は変わってくると思います。例えば、ダウン症は、心臓疾患、難聴、弱視を併せ持つことが多く、その15%に環軸椎亜脱臼が認められます。したがってこの診断を受けた場合は、首の過度な屈曲は避けなければいけません。また合併症は個人差があるので、保護者等から情報を入れておくことが大切です。

● 危険予測可能な人材の協力が必要

一般的にスポーツをすることは、危険に立ち向かうことになり、ある程度、事前に危険を予測できます。しかし、理解力の乏しい知的障がい者にとっては、危険を予測することが可能な人たちの協力が必要となります。また、安全上からも、新しい技能への発展には、現在の能力の定着を確認してから、技能をより細分化し、段階的な指導を行うようにしなければなりません。

● ルールや動きを工夫→「分かりやすさ」「安心感」

大切なことは、分かりやすさと安心感です。そして何より「楽しい」と思って参加していただくことです。知的障がいといっても、一人一人違った特性を持っているということを理解してください。目標が達成しやすい活動にしていだきたいので、ルールや動きを工夫して、スモールステップで取り組むことが大切です。「できた」「楽しい」「うれしい」と感じることができるようにならしましょう。

具体的なイメージが持ちにくく、視覚的な情報が入りやすいので、文字や絵、写真などを活用したり、実際に手本を見せたり、一緒に実践することが有効です。

● コミュニケーションは具体的、簡潔に 命令口調はダメ

変動や変化が苦手なので、変更のある時はできるだけ早く分かりやすく伝えてください。一度に多くのことを言われると整理しにくいので、具体的かつ簡潔に伝えるようコミュニケーション方法を工夫しましょう。

「それ」「あれ」などの代名詞を使わず、「赤いボール」や「黒い服を着た〇〇さん」等のように具体的に伝えるようにしてください。また、肯定的な言い方を心がけてください。例えば「違う」「ダメ」→「〇〇したらもっとよくなるよ」や、命令口調は使わず、「〇〇しなさい」→「〇〇しよう」などです。他にも大声で話さず、相手が分かる言葉に置き換えて話すことも大切です。

5

障がい者スポーツの普及に向けて、総合型クラブに求められること

障がいのある方がスポーツをする上で、移動手段という課題があります。地域で障がいのある方がスポーツに親しめる環境が整えば、もっとスポーツを気軽に楽しめる方々が増えます。障がい者スポーツという特別なスポーツがあるわけではありません。少しの工夫で障がいがある方もない方も一緒にスポーツを楽しめます。総合型クラブで一緒にスポーツが楽しめるようになると、もっともっと障がいのある方にもスポーツが普及していくと思います。ぜひ、一緒にスポーツを楽しんでください。

(一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会 山下 忍)

参考文献

- ・厚生労働省ホームページ
- ・障害のある人々のスポーツ 総論(藤原進一郎 著)
- ・障害のある人々へのスポーツ支援(特定非営利法人日本障害者スポーツ指導者協議会発行)

ブロック別クラブネットワークアクションとは...

ブロック内の総合型地域スポーツクラブ関係者(創設準備中団体を含む)が一堂に会し、総合型地域スポーツクラブの運営に必要な情報や課題解決に向けた具体的な取組事例等について情報共有を行い、クラブ育成・支援のためのネットワーク強化と各都道府県総合型クラブ連絡協議会間の連携体制をより一層促進することを目的に、全国9ブロックで開催しています。

平成29年度の各ブロックの開催報告は[こちら](#)から

